

# 組合だより

【 第 3 3 6 号 令和 4 年 6 月 日本羊腸輸入組合 】

## 5月の総会・理事会

○ 5月27日(金)、第59回通常総会、令和4年度第1回理事会が開催されました。審議結果等は以下のとおりです。

なお、川村理事長の総会開催挨拶、松永 新理事長の就任挨拶は、【参考情報・お知らせ】欄に掲載しております。

### 1. 出席者内訳

組合員ご本人様のご出席	7名
代理でのご出席	3名
委任状によるご出席	1名
議決権行使による御出席	8名
計	19名（5社未回答）

### 2. 議案審議の結果

上程された議案の全議案が、原案どおり可決承認されました。

### 3. 令和4年度役員

役員選挙結果を踏まえ開催された第1回理事会において、定款第37条第1項に規定する理事長、副理事長等が選任されました。

この結果、令和4年度の役員は次のとおりです。(敬称略)

理事長	：松永 大介		
副理事長	：関 道康	副理事長	：角一 健二郎
理事	：尾上 康浩	理事	：佐藤 和統
理事	：玉川 秀彦	理事	：森嶋 隆仁
監事	：遠藤 久	監事	：新宅 久夫

また、定款第42条に基づき、川村洋三 前理事長が顧問に委嘱されました。

## 5月の事務局業務

### ○組合員関連

- ・通常総会招集状、提出議案書等を発送し、出欠状況のとりまとめを行いました。
- ・事前配布された通常総会提出議案に関して、組合員からの御質問にお答えしました。
- ・天然腸輸入報告統計協力11社に対し、令和4年4月分の結果報告と令和4年5月分の報告依頼を行いました。

### ○関係省庁・団体関連

- ・経済産業省農水産室を訪問し、第59回通常総会提出議案について内容説明を行いました。
- ・日本ハムソーセージ工業協同組合宮島専務理事を両副理事長と共に訪問し、天然腸輸入の厳しい現状について御説明しました。

### ○その他

- ・在京米国大使館農務部からの羊腸、豚腸の輸入規模等に関する質問にお答えしました。
- ・第59回通常総会の会場となるホテルマイステイズ五反田駅前との通常総会開催の最終確認を行いました。
- ・総務省及び経済産業省実施の経済構造実態調査（報告義務統計）に回答しております。

## 統計

\* 統計の詳細は組合ホームページで御確認下さい。

### 【財務省貿易統計】

令和4年4月の天然ケーシング輸入量は、次のとおりです。

- ・総輸入量 365.2t(前月比+116.1t、146.6%/前年同月比△ 118.8t、 75.5%)
- ・中国原産 233.8t( " +140.2t、249.8%/ " △ 6.1t、 97.4%)
- ・豪州原産 68.9t( " + 24.9t、156.6%/ " △ 24.5t、 73.7%)
- ・NZ原産 44.6t( " △ 34.4t、 56.5%/ " △ 80.6t、 35.6%)

## 【ソーセージ生産量（日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ）】

令和4年4月のソーセージ生産量は、次のとおりです。

- ・ソーセージ類合計生産 : 28,062.6 トン（前年同月比：95.5%）
- ・ウィンナーソーセージ : 20,442.9 トン（ ” : 93.5%）
- ・フランクフルトソーセージ : 3,696.9 トン（ ” : 102.5%）

### HP 更新内容（統計関係を除く）

\* 更新内容の詳細は組合ホームページで御確認下さい。

## ○ INSCA から提供のあった ICTR 主要国レポートについて（事務連絡）

### 参考情報・お知らせ

## ○ 川村洋三 理事長の第59回通常総会開催挨拶

本日は、ご多忙の中、コロナ・オミクロン株の流行がまだまだ治まらない中、当組合の総会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日の総会は、過去2年と同様、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、理事・監事以外の組合員の皆様には、できるだけ書面での議決権行使をお願いしています。

例年ご参加いただいている、関係諸官庁・業界プレスの皆様には、総会資料を通して、令和3年度事業報告、決算報告、令和4年度事業計画、予算案についてご説明申し上げます。今総会では役員改選が行われますので、改選結果について併せて報告します。

当該事業年度の我が国経済は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、まん延防止等重点措置、あるいは緊急事態宣言などが継続的に発出され、社会経済活動は前年度に続き一定の制約を受ける環境でした。特定の産業（観光、外食など）は、引き続き厳しい状況が続きました。令和3年秋口から年末にかけては、2回目のワクチン接種が国民全体に行き渡り、感染者数は大幅に減少、経済活動も活発化しましたが、令和4年1月初めから、変異種であるオミクロン株が急速に感染拡大し、上記防止対策が再発動されるなど、コロナウイルス感染と向き合う日々が続いています。現在は、若年層へ3回目のワクチン接種の推進・啓蒙、高齢者へは4回目のワクチン接種が開始され、社会経済活動の回復・活発化が図られています。

### 「畜産・食肉加工品・天然ケーシングを取り巻く、世界の環境」

世界の畜産・食肉加工産業では、コロナ禍の影響で、生産・貿易物流などが滞り、食肉・加工品の供給が停滞・減少し、価格上昇・供給不安の状態にありました。加えて、本年2月24日にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が勃発し、穀物飼料不足をはじめ、畜産・食肉加工産業へ深刻な影響が懸念されます。

天然ケーシング産業では、2022年に入り生産・加工拠点が集中する中国で、環境保全を目的とした排水規制が一段と強化され、主要地区で多数の工場が稼働停止へ追い込まれる事態が発生しています。コロナ禍で生産水準が低下していたことに加え、今回の工場稼働停止により、中国産原料の加工・供給は、非常に厳しい状態にあります。中国ではコロナ禍の影響で上海を代表する大都市でも厳しい人流制限が実施されており、港湾業務も停滞しており、今後日本向け天然ケーシングの供給に、深刻な影響が出ることが予想されます。

### 「日本国内の天然ケーシング産業の動き」

2021年の天然ケーシングの輸入は、4,407トン、前年対比104%。高水準のウィンナーソーセージ生産での安定した需要に加え、中国からの入荷が不安定なため各組合員が通常より多め、早めの輸入を実施したと思われます。

輸入通関金額は199億74百万円と前年対比122%。数量に対して金額が大幅に増加しており、輸入単価が上昇していることが分かります。

同年の国内市場では、原料価格の上昇、海上運賃・物流費・そのほか包材費などの高騰で、パイプドケーシング価格の値上げが実行されました。しかしながら、ロシア・ウクライナ軍事衝突の影響で、さらなる原料価格の上昇が見込まれ、2022年も再度値上げが避けられない市場環境にあります。中国からの供給不安に加え、原料価格の一段の上昇が見込まれており、我が国の天然ケーシング市場を取り巻く環境は、非常に厳しい見通しです。

### 「組合として取り組む事業」

1. 令和3年度は、第58回総会で賦課金制度改定が承認され、組合財政は単年度収支が健全化することができました。組合事業の実施にあたっては、参加する組合員に事業費用負担を求めることにより、組合財政への負担を最小限に抑えて運営していきます。事務所運営経費については、引き続き削減に努めていきます。

2. 天然ケーシングの安定供給については、対日輸出可能国増加が重要です。対日輸出実績があり、BSE 発生国でも、リスクが無視できると判断された国を対象に、対日天然ケーシング輸出を促していきます。その実現には、INSCA, ENSCA, NANCA, CNSCA などとの協調が不可欠と考え、特に欧州各国のケーシング協会が参加する ENSCA の年次会合へは、組合として定期的に参加し、対日貿易の活性化を強く働きかけていきます。
3. 組合員の共通利益に資する事業については、現在4項目についてワーキンググループを設置し検討を進めています。現在、社会で求められているSDGs の考え方にも沿った事業に取り組んでいくことが重要と考えます。

#### 「まとめ」

1. 天然ケーシングの国内需要は、コロナ禍にあっても、強い内食需要に支えられ安定推移しています。この需要に応えるためにも当組合としては、天然ケーシングの安定供給に全力で取り組んでいきます。
2. 消毒制度廃止後課題であった組合財政問題は、令和3年度で改善することができました。今後は実施事業ごとに、組合員の費用負担をお願いし、事務局運営コストは引き続き削減に努めます。
3. 組合員共通利益に資する事業を通して、組合の存在価値を高め、組合員が一致団結して、安定供給実現を図っていきます。
4. 貿易制度、検疫制度、国内の衛生管理制度などの事業環境の変化には、諸官庁からの指導・協力を得ながら、運営強化していきます。関係業界とは密接に連携し、天然ケーシングの国内需要啓蒙を目指します。

関係する皆様のご協力を得ながら、新年度も天然ケーシング業界の健全な発展、食肉加工業界の発展に寄与できるよう、努めて参ります。皆様からの倍旧のご支援・ご協力をお願いして、理事長挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○松永大介 理事長の就任御挨拶（組合だより寄稿）

第59回通常総会において、理事再任のご指名をいただき、第1回理事会において当組合第7代理事長を拝命いたしました松永大介でございます。

理事長就任に際し、ご挨拶申し上げます。

日本における天然腸貿易は、終戦後の中国華北省からのわずかな数量から始まったとの記述があります。昭和27年(1952年)、3万hksの国内年間需要

に対応すべく外貨割当を得るために当時の農林省に陳情するもかなわず、国内でわずかにと畜される緬山羊の小腸を加工したり、米国産の人工ケーシングの輸入に努めたりしていたとされています。

その後も羊腸輸入制度の改善を求めながら、輸入量は増加し、昭和 30 年(1955 年)に 750 万円だったものが昭和 52 年(1977 年)には 38 億円にまで拡大しました。

拡大し続ける輸入量に対し、その後自動承認制が開始され、羊腸輸入は多くの商社が参入することになります。同時に急激に拡大した天然腸貿易は混乱を極め、品質不良などを原因とした多くの損害を出したとされています。その事態を重く受け止めた業界関係者は日本ハムソーセージ工業協同組合と共同で通産省の助成をうけ、天然腸輸入の健全化を目的に海外視察等を行いました。結果として国内検査機関の設置が不可欠と判断し、羊腸輸入組合の設立の運びとなり、昭和 38 年(1963 年)12 月 27 日当組合は輸出入取引法に基づき設立されました。組合設立時の組合員は 45 社で、その後も組合員数は増加し、6 年後には 100 社を超えましたが、昭和 45 年(1970 年)第 8 期に組合存続最大の危機とされている、変動調整期(※)を境に昭和 53 年(1978 年)までの間に 45 社まで減り、現在は 24 社となっております。

(※)変動調整期 世界的な原料枯渇、国内需要の低下、ソーセージ製品のスペシズ化

一方、昭和 60 年(1985 年)、大手メーカーから発売された手作り風粗挽きソーセージがきっかけとなりその後も各社から天然羊腸詰めの本格志向のウィンナーソーセージが発売されたことで国内需要は堅調に推移しました。組合員の尽力によりその需要は堅実に支えられ、業界的には「天然腸の黄金期」であったと言えます。

その後も幾多の問題を乗り越え現在に至りますが、今後も世界規模の気候変動や世界情勢の変化などにより新たな事業課題の発生が予想されます。

平成 29 年(2017 年)の消毒事業廃止に伴い当組合は事業収入を失い、厳しい運営を強いられておりますが、今こそ業界は一丸となって様々な問題と向き合っていかなければなりません。安心安全な原料確保、国内需要に対応した安定供給の為の輸入可能国の拡大は業界としての命題です。また、これらを実現するための行政との協力関係、業界総意を発信していく柱として、当組合の役割は大変重要と考えます。

今後も皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

以上をもって理事長就任のご挨拶とさせていただきます。

○羊腸使用割合（日本食肉加工新聞調べ）

日本食肉加工新聞の調査では、2021年のウィンナーソーセージ生産量に占める羊腸使用割合は64.4%との調査結果が公表されています。

	2011年	2013年	2015年	2017年	2019年	2021年
羊腸使用割合(%)	67.3	60.0	58.7	57.4	62.5	64.4

今後の主な予定

○7月20日(水) 令和4年度第2回理事会

以上